７日本語の素顔（外山滋比古）

幼稚園のかえりに、バイオリンの稽古に通わせているこどもの親が、まるでなっていないことばをしゃベっている。音楽の耳はできているのかもしれないが、ことばに関しては①馬の耳になってしまう。

絶対音感を養うのは結構である。それまで［　Ⅰ　］がまわるのだったら、いっそう大切な絶対語感を養うことにもっと熱心でなくてはおかしいのではあるまいか。もちろん、絶対語感などということばはないが、

「大阪の△△さん、②おりましたら……。」

という車掌も、

「ご本を③受け取りました。」

という若ものも、つまり、この絶対語感がしっかりしていないのである。世の中にそういう人が多いから、変な日本語を聞いても、変だと思わない。それでいろいろ④新しい日本語が横行することになる。

問１　――線部①について、「馬の耳」を使ったことわざを答えよ。

〔　　　　　　　　　　〕

問２　［　］Ⅰに入る漢字一字として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　目　　イ　舌　　ウ　手

問３　――線部②を正しい表現に書き改めよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　――線部③は、贈られた本に対する礼状の一部である。これを正しい表現に書き改めよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　――線部④のここでの意味として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　奇妙な日本語　　　イ　新奇な日本語

ウ　魅力的な日本語　　エ　創造的な日本語

【解答】

問１　馬の耳に念仏（馬耳東風）

問２　ウ

問３　いらっしゃいましたら

問４　いただきました

問５　ア

ポイント

問２　手がまわる＝配慮が行き届く。